



オーストラリアのギル・ダッシー国会議員を迎える  
石川島重工の土光敏夫社長（左）と柳沢錬造労連委  
員長（1955年）（記者提供）

羽田空港でフランク・ブクマン博士を迎える（左から）三井高維、一万田尚登大蔵大臣、  
山田節男参議院議員、古沢夫人（鳩山一郎首相令嬢）、加藤シヅエ参議院議員、一万田蔵相令嬢  
（1956年）





天皇陛下に代わって勲二等旭日章をブックマン博士に送る重光葵外相（1956年）



首相官邸でフランク・ブックマン博士を迎える鳩山一郎首相夫妻。左は星島二郎衆議院議長（1956年）



MRAマキノ島会議（アメリカ）でブックマン博士を囲む約100名の

日本青年団一行（1957年）

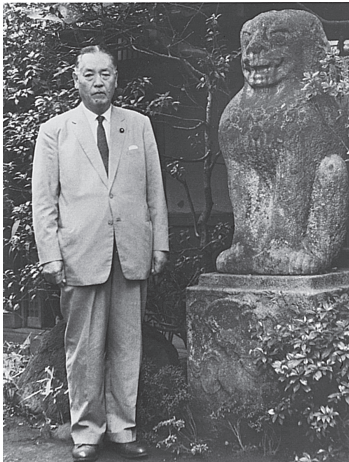


劇「明日への道」で貧しい百姓役を演じる住友吉左衛門住友家当主（中央）。左端は柳沢錬造石川島重工労働委員長（1958年）（訳者提供）

劇「明日への道」を観劇する東洋レーヨン（現・東レ）の従業員とその家族（大津）（1958年）



バギオ会議（フィリピン）でホスト役を務めるロス・リム上院議員。（左から）尹城淳国民議院外務委員長（韓国）、ロス・リム上院議員（フィリピン）、星島二郎衆議院議員（日本）、何応欽戦略顧問委員会委員長（台湾）（1957年）



石の獅子像と星島二郎衆議院議員。1957年星島議員は、所蔵していた石の獅子像とその台座を当時の駐日韓国代表部に返還した。これは暗礁に乗り上げていた日韓交渉の最も微妙な問題に触れることになった。韓国の国宝が日本による併合の間に日本に持ち込まれ、その多くが民間の手に渡っていた。星島議員は、両国関係改善への具体的行動として、他の日本人への範を示すべく自ら償いを行った

（訳者注）

この像について、当時星島氏は「乙巳保護条約の際に韓半島から搬出されたものであり、搬出した人は初代統監を務めた伊藤博文という説がある」と説明し、韓国の専門委員も調査の結果この獅子像が「国宝35号華嚴寺四獅子三層石塔と類似した統一新羅時代の傑作であるとみられる」との報告書を提出した。しかし、その後日本の浅川伯教から「華嚴寺四獅子三層石塔を搬出しようとしたができなかったので1930年に自分が複製し、木浦で製作した後日本に送った」と証言し、韓国の専門委員もこれを認めた。

しかし、1965年の日韓国交正常化以後も駐日韓国大使館の庭に展示されながら歴史的事実はあいまいに忘れられた。しかし、2010年に駐日韓国大使館の新築工事で獅子像を韓国に送り返した方がよいという意見が出た際に、この事実関係が改めて確認された。そして、この獅子像は2013年に韓国に帰国した。複製であっても、韓国の文化財を返還したという星島二郎氏の行為の価値が下がることはない。



スイス、コー（Caux）の「マウンテンハウス」。1902年（明治35年）にホテルとして建てられたが、第二次大戦中は避難民の収容所として使われ荒れ果てた。戦後、「戦禍をまぬがれたスイスは、分裂した世界に融和をもたらす場を提供すべきである」と感じたスイスの百余りの家族がこれを買取り修復し、以来MRA国際会議場として今日に至る。

終戦の翌年の1946年から1950年にかけて、大戦で戦った約四千人のドイツ人と約二千人のフランス人を迎え、独仏和解に貢献し、後のEU結成に貢献した。南アの黒人と白人、レバノンのキリスト教徒とイスラム教徒、旧植民地側と旧宗主国側、アメリカンディアンと白人など対立する立場の人々が世界中から集まり、さまざまな問題解決の場となっている。これまでに片山哲、中曽根康弘、岸信介、福田赳夫、羽田孜、鳩山由紀夫の6名の日本の首相経験者も出席している（訳者提供）



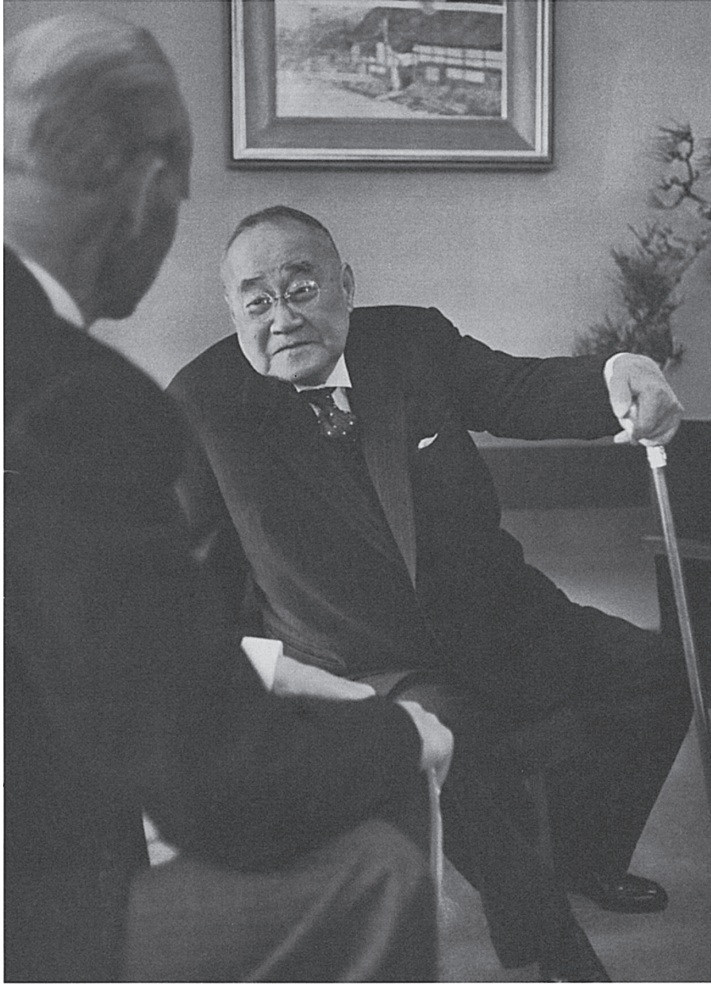
MRAハウスで外国人ゲストを迎える（前列左から）戸叶里子議員、加藤勘十議員、三井高維、戸叶武議員（前に出ている）、相馬雪香、木村利根子（訳者提供）



中国周恩来首相（左）と乾杯する日本青年団協議会訪中団長寒河江善秋（副会長）。労働組合幹部や作家など「招待外交」による日本人が多く同席する中で、彼に一番の上席が与えられ、最初のあいさつが求められたことが大きなセンセーションを呼んだ。寒河江の趣味まで知りつくし、サインまで望む周恩来の対応に、寒河江は“懐にすいこまれるように”感じたという（1956年）（訳者提供）



スイス、コーのMRA国際会議場玄関前に並ぶ（前列右から）福田赳夫元首相夫妻、岸信介元首相夫妻、千葉三郎議員、周東英雄議員、坊秀男議員（1961年）（記者提供）



ジェイムズ・ディクソン議員（スウェーデン）を迎える吉田茂元首相（1962年）  
（訳者提供）